

平成18年度 第2回博物館協議会

日 時：平成19年2月22日(木) 13:30～16:20

会 場：長浜市長浜城歴史博物館研修室ほか

出席者：委員5名・館長・補佐・坂本・北村・秀平・橋本・吉内

内 容：資料別添のとおり、内容下記のとおり

1 開会 13:30

2 挨拶 長浜城歴史博物館長 江竜喜之

2階展示室で、企画展の観覧(秀平)

3 議題

議事進行：会長 嶋田委員

(1) 平成18年度博物館事業(下半期)について

北近江一豊・千代博覧会『一豊・千代歴史館』特別企画「一豊と秀吉が駆けた時代」(吉内)
下半期博物館事業について(吉内)

(2) 平成18年度長浜城歴史博物館友の会事業(下半期)について

平成18年度 長浜城歴史博物館友の会実績について(吉内)
長浜城一門衆について(吉内)

・講評等は以下のとおり

一門衆とは、ユニークな名前だが、由来は何か?(木村委員)

当初の名前は、「一豊・千代小委員会」だったが、自分で「小」というのもおかしいし、良い名前がないかを考えた。以前、城郭管理者協議会で小田原城が「小田原評定衆」という名前をつけていると聞いた。うちも古式ゆかしい名前が良いということで、戦国大名の機構等から考えた。いくつか候補があったが、その中から投票をしてもらい、「一門衆」に決まった。自分たちも城主の親戚のような気持ちでボランティアをしていただくということで決まった。(事務局)

一門衆の男女の比率・年齢層はどうなっているか?(木村委員)

男女比率は、およそ半々。年齢層は60代が多い。中には、30代の方もおられた。(事務局)

今年の入館料予想と、来年度予算との連動はあるか?(真壁委員)

当初は5千万円弱を見込んでいたが、実際は8千万円になる見込み。見込みよりも増えた3千万円を基金に積み立て、来年度以降に資料購入にあてることになった。基金は6年計画になっている。(事務局)

リアルセンゴクはどのような内容だったのか?(小和田委員)

大河ドラマも漫画も現実と物語のはざままで動いているという面では同じ。漫画を描く上で、信長公記等を使っておられる作家さんなので、どうやって信長というキャ

ラクターを自分で造っていくかという話をされた。160人位に来ていただき、半分が友の会会員で、一般は若い人が多かった。アンケートを配っても、かなり辛辣な、率直な意見を頂けて、参考になる部分があった。大河ドラマも漫画も、歴史に興味を持ってもらうきっかけとしては大事にしたいと思う。(事務局)

大通寺も博覧会効果で訪れる人が随分増えたことで、修復事業にも絡んでくる部分があると思うが喜んでおられると聞く。(嶋田委員)

今度、事務手数料とは別に収益部分も2~300万円大通寺へ特別寄付されると思う。博覧会実行委員会も3千万円程の収益があり、市に寄付する等で処理をされる。(事務局)

長浜の文化に対する大河ドラマの波及効果は本当にすごいと思う。基金が積み立てられたことで、6年後にまで影響がある。ぜひともまたこれに匹敵するような企画を次にして欲しい。滋賀県ビクターズビューローで、次回大河ドラマの題材として取り上げて頂けるよう働きかける滋賀県の人物として、3人ほど候補が上がっていた。1番目が井伊直弼で、3番目が石田三成だったが少し地味である。やはりカラフルさがないと。(木村委員)

その点、浅井三姉妹は華やかさがあるので良いのではないか。原作で良いものはあるか?(小和田委員)

永井路子氏の「流星」と「乱紋」がある。(事務局)

(3) 平成19年度長浜城歴史博物館事業について

特別展「歴史のなかの鉄炮伝来」について(太田)

企画展「戦国大名浅井氏と姉川合戦」について(秀平)

企画展「竹生島の名宝」について(北村)

平成19年度常設展示(橋本)

・講評等は以下のとおり

井伊直弼と大通寺はどのような関連があるか?(嶋田委員)

井伊直弼に限らず大通寺は「連枝寺院」ということで、代々の住職を東本願寺の門主の兄弟が務めていたので、真宗の中でも重要視されていた。そういうことから彦根藩でも重要な寺院であり、住職が彦根藩から来たり、住職の奥さんを彦根藩からもらうこともあった。14男であったため嫡子になる予定のない直弼は、若い頃大通寺に入る予定だったが、結局何らかの事情で入らなかった。それを大通寺に謝っている書状が布勢の吟松寺にある。最近、彦根城博物館にいた毛利さんが「井伊直弼」という本を書いていて、その中で書状のことについて触れている。(事務局)

平成19年度で予定されている「^{こほく}江北図書館」展は具体的にどのようなものが展示されるのか?(大橋委員)

今年100周年にあたる江北図書館には、蔵書や伊香郡に関わる資料がたくさん残っている。現在調査に入ったばかりなので具体的なことは申しあげられないが、旧伊香郡の郡役所に伝わる資料等がたくさんあるのでそれらを見ながら展示を考えたい。(事務局)

あそこは古い写真等もあると思うが?(大橋委員)

各村の明治の地券絵図は揃っているが写真は現在未確認である。(事務局)

希望であるが、宝蔵寺には、琵琶を持った二臂の弁財天の軸物が2点も3点もある。琵琶湖の名付け親は、竹生島の弁財天であると常々言ってきたので、ぜひ展示をお願いしたい。(木村委員)

即断はできないが宝蔵寺にお借りできるものであればお願いをしようと思う。展示の際には、琵琶を持った二臂の弁財天が琵琶湖の呼称の原点であるというキャプションを付けてもよいか?(事務局)

それでよい。しかし八臂の方は室町以降財宝の神になるので付けてはいけない。(木村委員)

琵琶湖の「琵琶」はいつ頃から使われ始めたのか?(事務局)

14世紀の初頭。室町時代の溪嵐拾葉集の中で、弁財天の持っている琵琶の形に似ていると書かれている。一般的になるのは貝原益軒である。それまでは淡海や水海、湖と書いて「うみ」等と、文学作品の中でも呼ばれていた。(木村委員)

これだけの事業を、少ない人数でこなしているのが、大変なご苦労だと思う。体力と充分相談いただいて、次回から企画の計画をしていただけたらと思う。(木村委員)

(4) 今後の博物館活動への意見・提言

以前は、友の会の活動も学芸員の方等で支援してこられたが、ボランティア組織が発足したので、今後そういった方々が運営されるのか?(木村委員)

そうではなく、博物館事務局でお手伝いをさせていただいている。友の会の講座等は会員の会費で開催しており、市からはお金が出ていない。その代わりに、職員が仕事をお手伝いしている。近年民間の力を使って、事業を行うような時代になりつつある。館の職員もお手伝いをする必要はあると思う。友の会がただ単に趣味を満足させる組織ではなく、館と連携している組織だと考えている。(事務局)

友の会の会費は?(木村委員)

一般2,000円・家族会員3,500円・研究会員3,000円。家族会員は、家族の方であれば会員の方と同じ特典が受けられる。(事務局)

高齢者の方が多いと思うが友の会の人数は増えているか?(木村委員)

増減はしているが、今年は若干減っている。毎年、会員の方が亡くなったりして、会員数は減っており、引き続いて家族が入会するということが少ない。新規の会員を呼び込む事業をしないと減っていくと思う。友の会の会員数が活動にも響いてくる。「リアルセンゴク」のような事業をして、若者のニーズを探っていかなければならない。

若い方で石田三成ファンや大谷吉継ファンは全国に多い。テレビゲーム等でも題材になっているのが影響しているのではないかと。そういうことを理解することが大事である。(事務局)

パチンコの台でも、戦国時代の人物を題材にしたものがある。これも歴史に興味を持つきっかけの一つになると思う。大河ドラマで演じた役者のイメージもあるのかもしれない。(木村委員)

最近関ヶ原を若い女性グループが歩いているのはその影響?(小和田委員)

それも多いにあると思う。関ヶ原の方から西軍の陣所跡を案内することが多く、東軍はあまり案内することがないと聞く。負けた方を応援したくなるのかもしれない。

当館の石田三成関連の図録もよく買っていていただくている。(事務局)

そういった女性層や若年層も含めて、友の会の会員にどう取り込めるかが重要。(小和田委員)

友の会は男性・女性のどちらが多いか?(嶋田委員)

男性が多い。(事務局)

(5) その他

資料の鑑定

「羽柴秀吉書状 ^{のぶとも}延友佐渡守宛」(内容 太田館長補佐説明)

天正10年6月25日、清洲会議の2日前の文書。中国地方から帰った秀吉が、東美濃の延友佐渡守宛てに、「悪逆人(明智光秀のこと)」等を退治したことで、近江国の治安を回復したことを知らせた。また、美濃国内については、秀吉に人質を出すよう命じたのに対し、延友がすぐに人質を出したことを賞し、さらに人質を拒む国人があれば成敗するので、今日明日中に報告を行えと述べている。

「羽柴秀吉書状 遠山佐渡守宛」(内容 太田館長補佐説明)

賤ヶ岳合戦の直前の資料。北伊勢の攻撃を秀吉が終了し、北近江に軍を展開することを、東美濃の武将・遠山佐渡守に宛てて知らせた書状。冒頭では、遠山佐渡守から「包丁刀」10本を送られた礼を述べている。文中は、亀山・国府城をすでに落城させ、峯城を包囲中であること、柴田勝家が北近江に進軍してきたので、自分は佐和山城に至ったこと、さらに柴田側が「柳瀬」周辺に軍隊を展開しているので、これを明日中にでも攻撃することを述べている。また、遠山佐渡守のことは、岐阜城攻城中の森長可が入魂なので相応の待遇をするので、詳細は生駒吉一へ伝達する旨が述べられている。

「彦根藩定書」(内容 北村学芸員説明)

上八木村に彦根藩から発せられた文書。彦根藩初期の家臣の名前が書かれている。彦根藩領の変遷は不詳な部分も多いが、この文書により上八木村が大坂夏の陣直後の慶長20年の加増時に彦根藩支配下になったことがわかる。

講評等

これから研究に使えるような新しい資料が、まだ出てくることがすごい。

館蔵資料の点数はどのくらいか?

この資料で15点程になる。寄託を含めると50点を超える。秀吉の資料は大阪城に次いで多いと思う。

- 車で移動 -

長浜鉄道スクエア新春企画展『明治・長浜の商人魂 美しい引き札の世界展』

(橋本学芸員展示説明)

コンセプトから展示まで全て当館の学芸員で行った。鉄道スクエアには週1で来られている嘱託学芸員がいる。

観光施設ということもあり、親しみやすく、わかりやすい説明を心がけた。歴史的な部分よりも、どのように使われたものであるのか、どういう部分を見ればよいの

かを取り上げた。

現在も、市内でお店をされている店もあるので、身近に感じられる企画展になったかと思う。

中身は、日曜日がまだなじみが薄かったので、いつが日曜日なのか一目でわかるようなものや郵便料金の一覧表、1年分の献立表などがある。(橋本学芸員)

当時の長浜の文化水準が高いことがわかる。(委員)

印刷が鮮やかで、色も大変美しい。デザインも凝っている。(委員)

例えば、乾物屋の引き札は、イカの部分に文字が書いてある。当時の最先端である電話を題材に取り入れたりしている。(橋本学芸員)

歴史的な物語が題材の引き札はあるか？(委員)

展示替等で現在は展示されていないが、児島高德や、明智秀満の湖水渡り、赤穂浪士の討入りなども人気のデザインだった。(橋本学芸員)

地元の方も、どの店のものかわかるし、興味を持ってもらえると思う。

図柄が豊富であり、当時の印刷技術がとても素晴らしい。

観光に貢献されている企画である。

引き札が何か？という質問はあるか？

ある。当時は絵ピラと呼ばれていて、後年引き札と呼んだよう。

曳山博物館特別企画展『長浜の子どもを見つめたおひなさま - 豪商・浅見又蔵の雛人形展 - 』
(橋本学芸員による展示説明)

浅見又蔵とはどんな人物か？

明治期に長浜で活躍した豪商で、慶雲館の建設など、長浜の財政界をリードした人物。この雛人形は、長浜初の保育施設である「愛児園」に浅見又蔵が寄贈したもの。

曳山博物館企画展「曳山の美・見送幕 トロイア戦争タペストリーの世界」についての
森岡学芸員による展示説明

16:30 曳山博物館にて閉会・解散

お問い合わせ先

長浜市公園町10番10号

長浜市長浜城歴史博物館

担当：太田・吉内

電話：0749-63-4611

FAX：0749-63-4613